

MAP



南部地区

南部の村々には古くから人々に親まれてきた湧水(カー)がある。湧き水のおかげで地域の農業が栄え、豊饒な文化が生まれ育ってきた。暑い沖縄でも流水の音を聞くことと涼を感じることができる。玉城村にある仲村渠樋川(ナカンダカリヒージャー)は、以前は水が豊富で人々の生活や樋川の前面に広がる水田を潤していた。石造りの立派なもので水浴場や洗い場もある(国指定重要文化財 建造物 1995) 垣花樋川(カキノハナヒージャー)の石畳の坂道はなんともいえない風情があるが、昔は上の集落まで生活用水を担いで運んだため、そのきつさに嫁の来手が少なかったといわれている。昭和60年環境庁の名水百選に選定されている。



【海人(うみんちゅ)の正月】  
旧暦の1月1日の糸満漁港は大漁旗を掲げた漁船が勢揃い。海人(ウミンチュ)の正月には、漁港にあてやかな大漁旗をかかげて、航海の安全と大漁を祈願し、盛大に祝う。(糸満市)



【水辺に咲くショウブとハス】

大里村古堅の池では、水辺環境が大切に守られ、ハスやショウブが咲き誇り、道行く人の心を和ませてくれる。(大里村字古堅)



【みどりに囲まれた農村住宅】

久高島の農家では、今なお屋敷囲いに石垣やフク木が使われており、昔ながらのしっとりとした集落のたたずまいを残している。(知念村字久高)



【道行く人へのグリーンと涼のサービス】

知念村知名の国道331号線沿の大城さん宅前にごみとガジュマルの生垣があり、涼を感じさせてくれる。(知念村字知名)



【稲収穫風景】

南部ではほとんどみられなくなった水田。黄金色に輝く稲穂が風にゆれるのどかな風景が渡嘉敷島で見られる。(渡嘉敷村)

【海と畑のコントラスト】

生産や生活は自然のなかで調和を続けて営まれている。知念村の具志堅、山里集落は、インゲン産地として、沖縄県一で、畑と緑のある集落、海とのコントラストが雄大さを感じさせる。(知念村)



# 朝日散歩旅。

南部地区



訪れた人にだけわかる、南部の息吹、大地のぬくもり、太陽の偉大さ。海も山も空も風も、みんな生きています。ほつとして立ち止まりたい、心をなごませ、空から、緑と太陽の光に包まれた自然の豊かさを感じてほしい。

【東海岸から見る朝日】

沖縄本島の東部久高島のはるか東の方から毎日、朝日が昇ってくる。この輝く朝日こそ知念村のシンボルだといえる。朝日はやがて強い陽射しとなって南部地域に照りわたり、豊かな農作物・水産物を生み出し、希望を抱かせる。初日の出参拝場所となっている。(知念村知念岬)



【垣花ヒージャー】

石畳の道を降りていくと、うっそうと茂った林の中腹から泉水が湧き出ている垣花樋川(カキノハナヒージャー)は、環境庁の名水百選にも選ばれている。右側から出る水が男(イキガ)川、左側の水が女(イナグ)川、その下の水たまりは馬浴(ウマアシヤー)川と呼ばれている。子供達が水と親しみ交流する場所にもなっている。(玉城村字垣花)



【仲村渠ヒージャー】  
(玉城村字仲村渠)



【嘉手志川(カデシガー)】

かつて南山を支えた豊かな泉。この泉は、南山繁栄の基礎となった泉で、この地はかつて「水の国」とよばれていた。現在、夏には、子供たちの水遊び場となっている。(糸満市)

【樋川の水辺で涼をとる】

